

第2章

景観形成の基本的な 考え方



第2章 景観形成の基本的な考え方

1 景観形成の理念と目標

(1) 基本理念

本市の景観形成に向けた基本理念*1を次のように設定します。

<基本理念>

「奥ゆかしさと本物を誇る風景づくり」

このまちに住む人、訪れる人、誰もが心と静かな感動を感じる、そんな奥ゆかしさとここにしかない本物を誇る風景づくりをめざします。

本市は、標高2,000m～3,000m級の山々がそびえる南アルプスの山岳地域から標高300mの釜無川まで標高差のある地形となっており、釜無川、御勅使川、滝沢川、坪川をはじめ、大小の河川や我が国固有数の規模を誇る御勅使川扇状地といった特徴的な地形構造(大地の構造)が土台となって、豊かな自然環境を背景に、優れた眺望、一面に広がる果樹園の風景、のどかな里山や農村風景、数多く点在する歴史・文化的な景観、四季折々に変化する美しい風景など、特色ある景観を形成しています。

特に、人々が生活する田園居住地域周辺では、古くから扇状地一帯を「原方」、釜無川の氾濫原にあたる低地帯を「田方」、これらと山の境になる山の辺を「根方」、山地部を「山方」と呼んでおり、それぞれの自然条件やそこに暮らす人々のなりわい、営みの中で、奥行きや深みのある地域景観が形成されてきました。

この個性ある風景は、初めからあったものではなく、自然と共生するための暮らしや様々な営み、自然との関わり方など、先人たちの知恵と暗黙の秩序のもとに、永い年月をかけて受け継がれ、形づくられてきたものです。

しかしながら、近年の都市化や生活の変化によって、こうした知恵と秩序が継承されなくなり、南アルプス市らしい景観の魅力が少しずつ失われつつあります。

本市の特徴ある風景は、これからも「南アルプス市らしさ」の原点となるべきもので、本市の誇るべきかけがえのない財産といえます。

先人たちの永い歴史の営みの中で、受け継がれてきたかけがえのない風景資産を大切に守り・育て、後世に引き継いでいくことは、今を生きる私達の大きな責務であると考えます。

本市の懐の深い個性ある風景をもう一度見つめ直すとともに、潜在的な魅力を引き出し、このまちに住む人、訪れる人、誰もが心と静かな感動を感じる、そんな奥ゆかしさとここにしかない本物を誇る風景づくりをめざします。

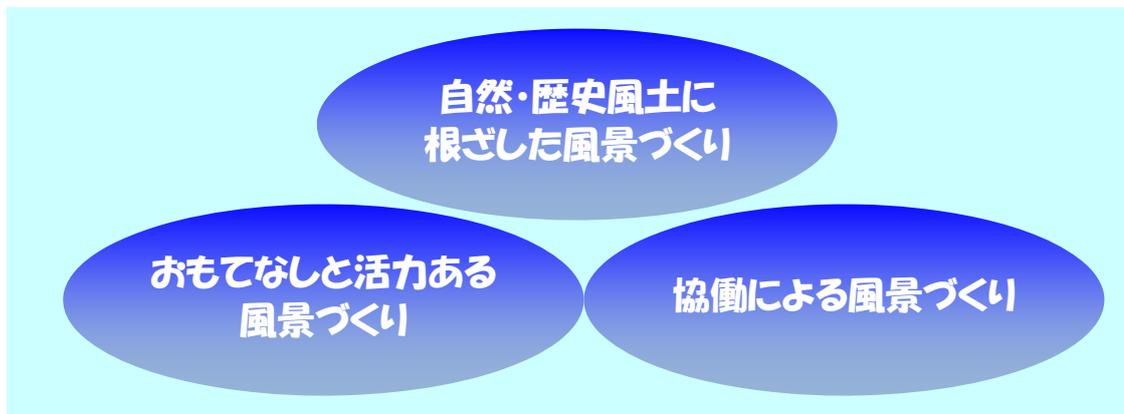
注) *1 基本理念や景観形成の目標については、本市の景観特性、市民意識、課題を踏まえたうえで「風景づくり市民懇談会」で提案された「風景づくり市民プラン」をもとに設定しています。

*2 奥ゆかしい：深みと品位があって、心がひかれる。深い心遣いが感じられて慕わしい。奥にひそむものに強く心がひかれる。(広辞苑より)

(2) 景観形成の目標

景観形成の基本理念を実現するため、次のような景観形成の目標を設定します。

<景観形成の目標>



① 自然・歴史風土に根ざした風景づくり

～特徴ある大地の構造と地域の歴史風土に根ざした風景づくりをめざします。

本市の奥行きと特徴ある景観は、我が国を代表する南アルプスの山々と釜無川、御勅使川、滝沢川、坪川などの大小河川、我が国有数の規模を誇る御勅使川扇状地などの大地の構造を土台に、自然と歴史風土、とりわけ、古くから「山方」（山）、「根方」（山の辺）、「原方」（扇状地）、「田方」（氾濫原の低地）と呼ばれる地域での人々の営みの中で、永い年月をかけて形成されてきました。

将来にわたって、この持ち味を損なうことなく後世に継承するため、大地の構造や地域の自然・歴史風土に根ざし、その特色を最大限に活かした風景づくりをめざします。



② おもてなしと活力ある風景づくり

～本市の魅力度を再認識し、それを最大限に生かしたおもてなしと活力ある風景づくりをめざします。

本市は、我が国を代表する南アルプスの美しい山岳景観をはじめ、湖、溪谷、河川、湧水、豊かな森、そこに生息する様々な動植物など、豊かな自然環境に恵まれています。

市内からは、白根三山や八ヶ岳、甲府盆地を一望し、富士山も眺められるなど、優れた眺望に恵まれ、広大な扇状地や低地部には一面に果樹園や水田が広がり、美しい農村景観を形成しています。

また、本市の歴史は古く、御勅使川や釜無川などの治水と利水の歴史を物語る中世・近代の遺跡をはじめとする数々の遺跡や史跡等の文化財、往時の名残をとどめる曲輪田、西野、高尾などの古い集落地、駿信往還と荊沢宿や小笠原宿、十日市場、加賀美などの歴史的なまちなみ、安藤家や矢崎家などの伝統的な建造物、市之瀬台地の棚田、今なお残る古い地名、社寺、蔵、祠や塚、道祖神、大木・古木、地域に伝わる民話、伝統行事や祭り、伝統技術などの歴史文化的な遺産が有形無形に、今日も息づいており、これらが混然一体となって本市の景観を特徴づけています。

これらの景観資源は、ふるさとへの愛着を育む市民の心の拠り所となるものであり、まちや郷の活力を生み出す大切な観光資源でもあります。

こうした南アルプス市の奥行きのある景観の魅力度を再認識し、大切に守り、育てていくとともに、本市の誇るべき風景ブランドとして積極的に活用し、景観まちづくりを通して都市全体や地域の活力向上をめざします。

③ 協働による風景づくり

～市民・観光客、事業者、行政等の協働により、愛着と誇りのもてる風景づくりをめざします。

近年、本市では、中部横断自動車道や新山梨環状道路の建設をはじめ、市内の道路整備が進むとともに、大型店舗の立地や宅地化も進行しつつあり、景観も少しずつ変化しています。

一方、時代の変化や都市化の進展とともに、果樹園等の農地の減少や耕作放棄地の増加、松食い虫の被害や人手不足による森林の荒廃、ごみの不法投棄、産業廃棄物の野積み、乱立する看板や標識、風景になじまない建物や構造物も増えてきているなど、アンケート調査によると、近年、本市の景観は悪くなってきているという市民の声も多くあがっています。

本市の財産である美しく個性豊かな風景を守り・育てていくためには、行政をはじめ、市民や事業者、本市を訪れる観光客など、多くの人々の景観に対する理解と協力が必要です。

市内では、NPOやボランティア団体、地域の自治会などで、植樹・花植え、道路や水路の草刈り、清掃など、景観の向上に係わる多様な市民活動が行われています。

今後は、時代にあったやり方で、マナーの向上、景観に対する意識の向上、本市にあった景観のルールや仕組みをつくり、市民・観光客、事業者、行政等の協働により、誰もが愛着と誇りのもてる風景づくりをめざします。



・協働による風景づくりの例 一本景観計画づくりにおける風景づくり市民懇談会

2 南アルプス市の景観構造

(1)本市の景観構造の特徴

1)市全体からみた特徴

本市は、構造的に大きく3つの景域(景観エリア)に区分することができます。

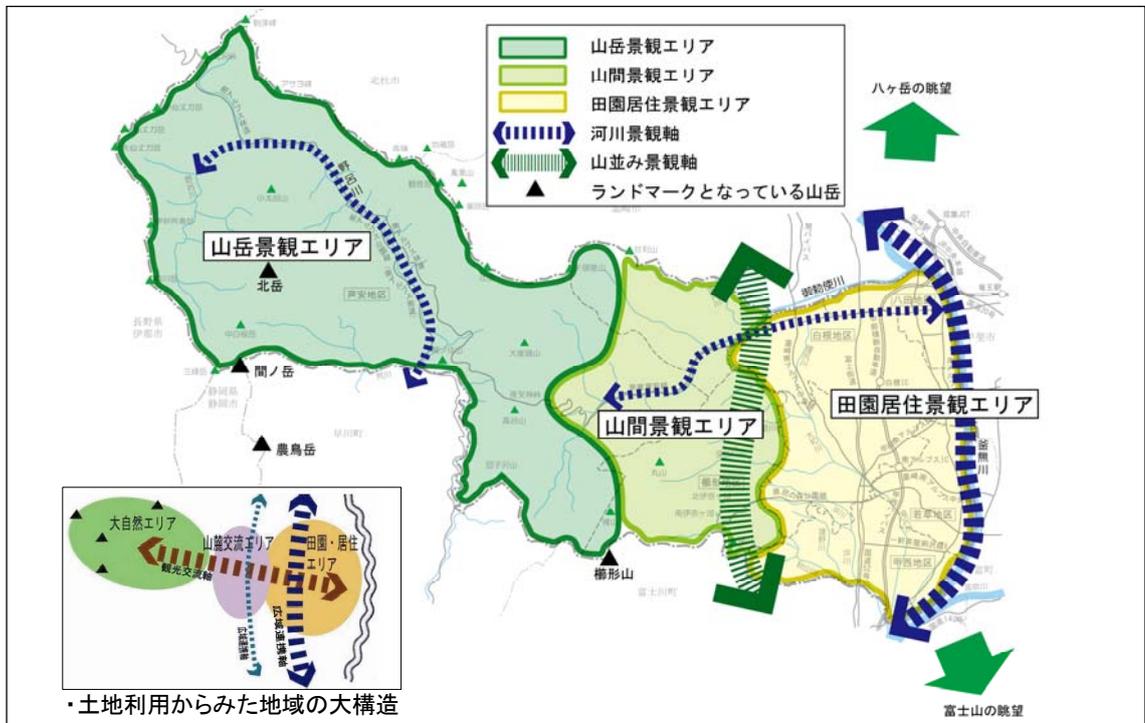
本市は、東西に細長く標高差と奥行きのある地形となっており、景観の同質性から大きく次の3つの景域(景観エリア)に区分することができます。

また、主要な河川や市街地の後背に広がる山並みなどが、景観の骨格を形成しています。

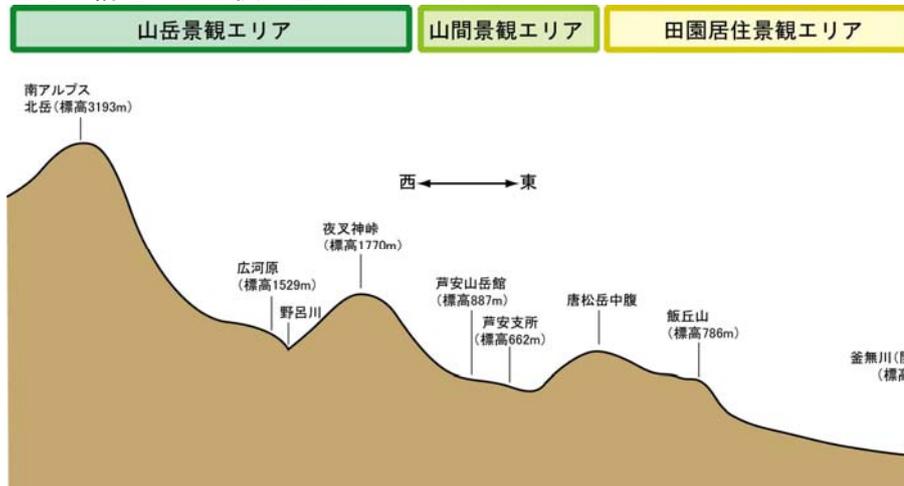
<3つの景域(景観エリア)>

- 山岳景観エリア(夜叉神峠以西の南アルプス国立公園、県立自然公園区域の自然景観)
- 山間景観エリア(芦安や高尾等の山間集落地と櫛形山などの周辺の山々の景観)
- 田園居住景観エリア(御勅使川扇状地や低地部に広がる市街地や農業集落地の景観)

■ 景観の基本的構造



■ 地形構造の断面模式図とエリア区分



2) 田園居住景観エリアの特徴

田園居住景観エリアについては、^{よんかた}四方の地形構造が、景観の土台を形づくっています。

① 地形構造の特徴

人々が生活し、都市活動が営まれている御勅使川扇状地を中心とした田園居住景観エリアは、地形や地理的な特徴から扇状地一帯は「原方」、釜無川の氾濫原である低地部の水田地帯は「田方」、市之瀬台地や飯丘山丘陵の山麓は「根方」、飯丘山以西の山間地域は「山方」と古くから呼ばれてきました。この地域区分は景観区分とも共通するものがあり、それぞれ独自の景観を形成しています。

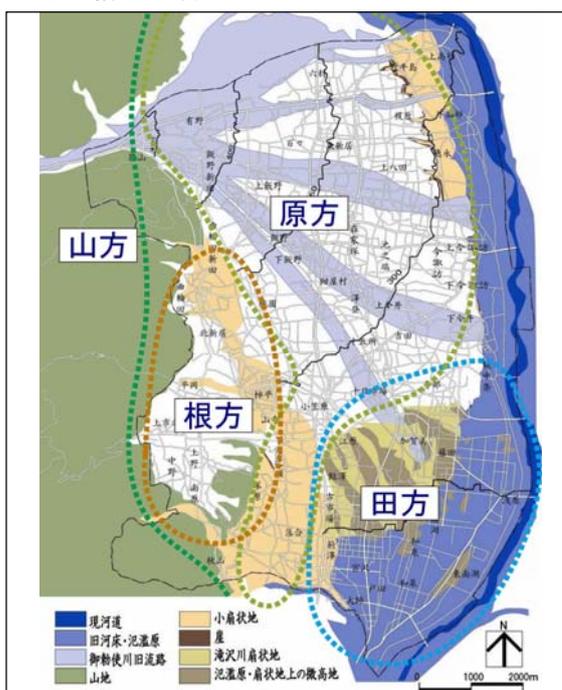
② 景観ゾーンの区分

田園居住景観エリアについては、^{よんかた}四方の地形構造、現況土地利用などを踏まえ、景観の同質性から、次の4つの景観ゾーンに区分することができます。また、「山方」は山間景観エリアと対応しています。

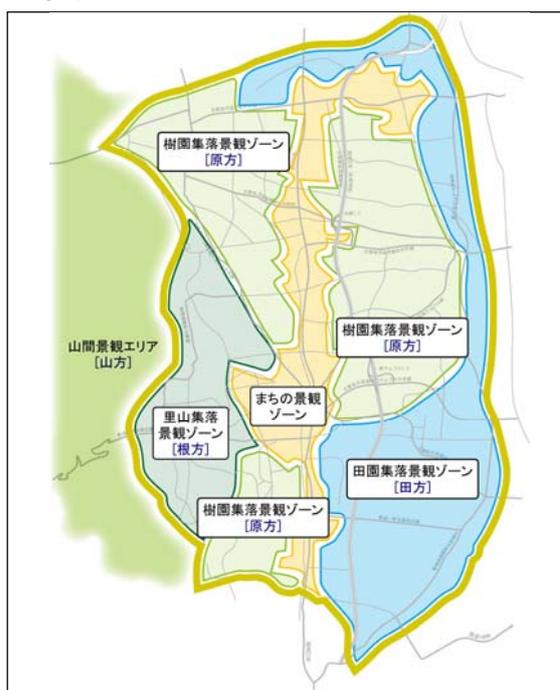
< 田園居住景観エリアの景観ゾーン >

- 「原方」→ 樹園集落景観ゾーン（扇状地に広がる樹園集落地景観）
- 「田方」→ 田園集落景観ゾーン（釜無川氾濫原の低地部に広がる田園集落地景観）
- 「根方」→ 里山集落景観ゾーン（市之瀬台地や曲輪田など、山の辺の里山集落地景観）
- まちの景観ゾーン（国道52号沿道周辺の既存市街地やまちなみ景観）

■ 地形構造の特徴



■ 景観ゾーンの区分と四方



■ 地形構造の断面模式図と景観ゾーン区分



(2)本市がめざす景観構造

1)景観構造の考え方

本市の雄大で奥行きのある景観構造の特色を今後とも保全・継承していくことを基本に、多彩で魅力的な景観拠点を育てるとともに、景観拠点や優れた景観資源を有機的につなげていくことにより、本市の景観構造の構築をめざします。

① 大地の構造と一体となった景観エリアや景観ゾーンの特色を最大限に生かします

特色ある大地の構造（地形構造）は、本市の景観の大きな土台となっています。また、地域の特色ある景観は、大地の構造と人々の永い歴史の営みの中で築きあげられてきたものです。

各景観エリアや景観ゾーンの特色ある地形構造を損なうことのないよう景観上十分配慮し、固有の景観を大切に守り、これを継承していくとともに、その持ち味を最大限に生かした景観形成をめざします。

② 優れた景観資源を有機的につなげる景観ネットワーク～「風景回廊」を創ります

市民、観光客など多くの人々が、南アルプスの雄大な山岳景観をはじめ、優れた眺望や自然景観、里山・農村景観、歴史文化的景観など、本市の風景の魅力を楽しめるよう、道路や河川等を活用して、多彩な景観拠点や景観資源を有機的に結び、市内を回遊する景観ネットワーク～「風景回廊」づくりをめざします。

③ 多彩で魅力的な景観拠点(場)を育てます

市内の生活拠点、観光地、優れた眺望場所、景観資源などは、景観の保全や景観の向上を図り、多彩で、魅力的な景観拠点（場）として育てます。

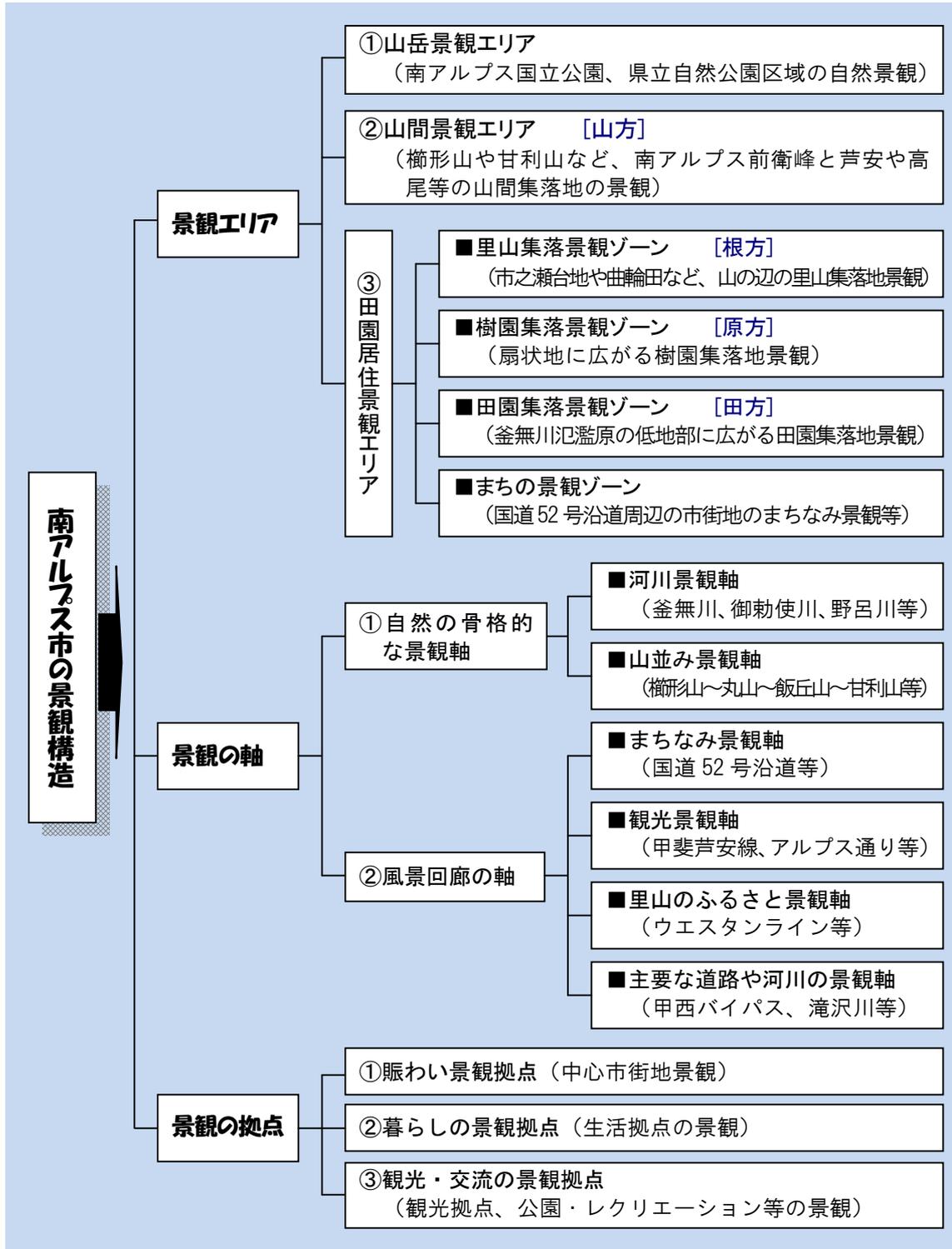
■雄大で奥行きのある景観構造



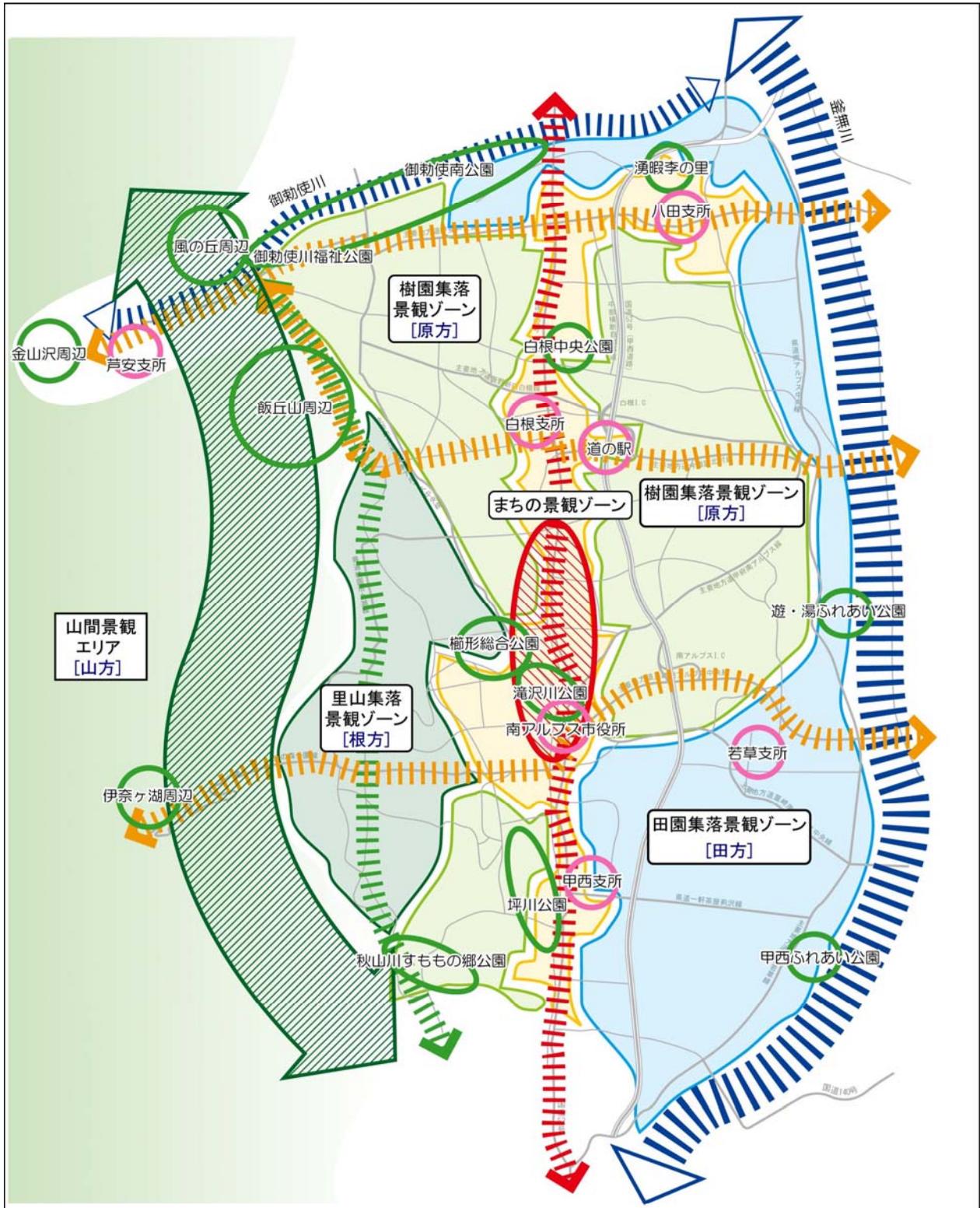
2) 景観構造の設定

本市の景観構造の特徴や景観構造設定の考え方に基づき、本市がめざす景観構造として、大きく3つの「景観エリア」、2つの階層からなる骨格的な「景観軸」、3種類の「景観拠点」を設定します。

■南アルプス市の景観構造



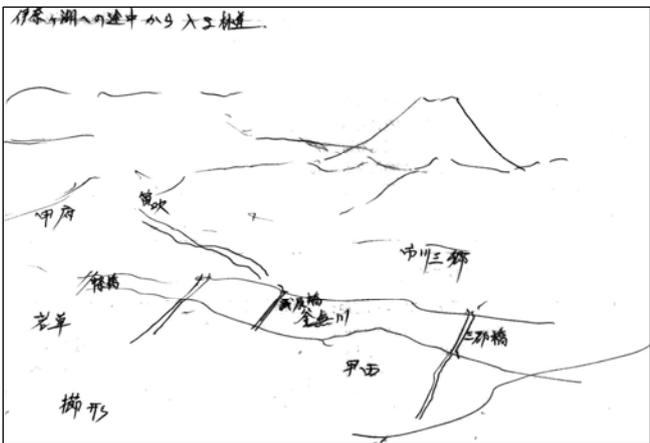
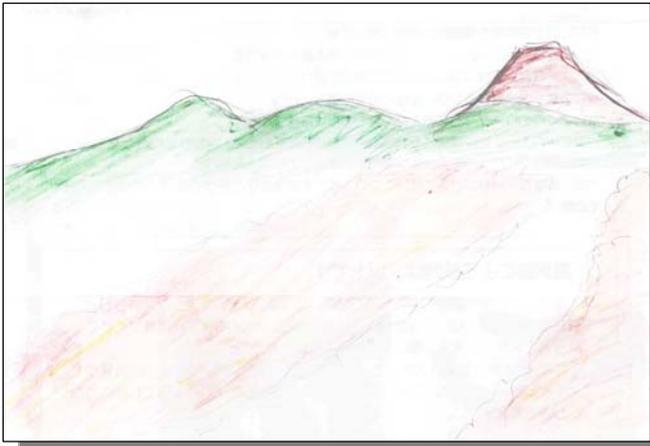
■南アルプス市の景観構造（田園居住景観エリア）



凡例

景観ゾーン	景観の軸	景観の拠点
<ul style="list-style-type: none"> 里山集落景観ゾーン[根方] 樹園集落景観ゾーン[原方] 田園集落景観ゾーン[田方] まちなみ景観ゾーン 	<ul style="list-style-type: none"> 河川景観軸 まちなみ景観軸 観光景観軸 里山のふるさと景観軸 山並み景観軸 	<ul style="list-style-type: none"> 賑わい景観拠点 (中心市街地景観) 主要なくらしの景観拠点 (生活拠点の景観) 主要な観光・交流の景観拠点 (観光拠点・公園等の景観)

注) * 山岳景観エリア、山間景観エリアの景観構造は本計画書 33 ページを参照下さい。
 * 主要な道路や河川の景観軸は数が多いため図示は省略しています。



●掲載の絵は、平成19年12月に実施した「景観アンケート調査」の自由記入欄（私の好きな南アルプス市の風景）に描かれた絵の中から抜粋しました。